

【ポスター発表】

医療ソーシャルワーカーになっていくための過程と専門職養成教育の課題

—本学における実習教育を履修した学生を対象としたアンケートを通して—

○ 日本福祉大学 鈴木 由美子 (5566)

二本柳 覚 (日本福祉大学・6983)、寺澤 法弘 (日本福祉大学・5898)

キーワード：医療ソーシャルワーカー、医療福祉実習、専門職教育

1. 研究目的

わが国のソーシャルワーカー養成のあり方については、「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」(2007年)において、実践的なソーシャルワーカー養成を目指し大きくカリキュラムや養成体制の見直しが行われた。社会福祉士の役割として「医師その他の保健医療サービスを提供する者等と連携して業務を行う」ことが明確化され、医療ソーシャルワークとの関連では「保健医療サービス」が必修科目として配置された。

2006年4月、実習指定施設に医療機関が追加されたが、本学では、医療ソーシャルワーカー(以下MSW)を目指す学生は、社会福祉士カリキュラムの上乗せとして4年次に「医療福祉実習」を開講している。ここ数年間の履修者数は、2008年度31名、2009年度30名、2010年度25名と推移しており、MSWとして医療機関などに就職をする者も多い。

MSW養成教育にとって、医療ソーシャルワーク実習と医療ソーシャルワーク学習の両方が不可欠であることは明らかとなっている¹⁾。そこで、今後の医療ソーシャルワーク実習教育をより充実させるため、医療福祉実習を履修し、MSWになっていくための動機の形成といった点から調査を行い、医療福祉実習の選択理由等の実態や学生のもつ諸価値(ニーズ)を明らかにすることで、今後の実習教育のあり方について考察を行うことを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究は、4年次開講科目「医療福祉実習」を2010年度に受講した卒業生25名を対象に、大学入学前から就職した現在までの体験について調査を実施した。調査方法は、郵送法によるリッカート○段階回答方式及び自由記述からなる記名自記式アンケート調査とした。質問内容は「大学を選んだ理由」「大学入学前にMSWを知っていたか」「いつ頃からMSWになりたいと考えていたか」「MSWになりたいと考えたきっかけ」「医療福祉実習を履修した理由」「医療福祉実習後、就職への考え方の影響」「MSWの職業を選択した理由」「MSW以外の職業を選択した理由」「在学中に学んでおきたかったテーマ」等である。

調査期間は2012年2月25日～3月17日である。

3. 倫理的配慮

記名式としたが、回答の内容はデータとして扱うこと、回答された内容は本研究のみに使用し、他に利用されることはないこと、回答者が特定されないことを示す調査依頼文を添付した。

4. 研究結果

回答者は、男性3名、女性7名、計10名であった（回収率40%）。職業の内訳は、MSW6名、福祉施設・機関4名であった。大学入学前にMSWを知っていたと回答したのは7名であり、そのうち全員が「入学前からMSWになりたいと考えていた」と回答したことから、入学前からMSWを志望した者が多いことが確認された。また、在学中にMSWを志望したきっかけについて聞いた設問では、「医療福祉実習（正課実習）」「病院見学・病院実習（任意実習）」「ゼミナール」「MSWと話した経験」「講義」「実習報告会」の項目において、それぞれ9名が「当てはまる」「おおよそ当てはまる」と回答した。

医療福祉実習を履修した理由では、「MSWになりたかった」「病院で働くことに興味があった」が多くみられた。また医療福祉実習が志望動機に与えた影響に関しては「医療機関に就職したいと考えた（7名）」、「医療機関をやめて社会福祉分野に就職したいと考えた（3名）」と回答されており、医療福祉実習は、就職への気持ちがほぼ強化される経験であることが確認された。

卒業後、MSWの職業を選択した理由をみると、「仕事にやりがいがある」「社会福祉士国家試験に合格した」「自分の適性に合っている」「自分の能力が生かせる」「人と接する仕事をしたかった」について全員が「当てはまる」「おおよそ当てはまる」と回答した。さらに、在学中にもっと学んでおきたかったという項目に関しては、「他職種の業務や視点の理解」「医学知識」「交渉術」「MSWからの話」「現場を見学する機会」「制度の知識」「インタビューやアセスメントの方法」などの知識や技術が指摘されており、卒後1年目のMSWや施設職員の感じている苦労や不安は、ほとんど共通の内容であることが推察された。

5. 考察

今回のアンケート結果から、卒業後の進路選択に関しては、入学前からMSWを志望していた学生が、医療福祉実習を通して、その動機を確認し、強化していく過程が確認された。高度化・複雑化が進む医療現場では、特にチーム医療が求められているが、初任者MSWがチームの一員として、多くの専門職と協働していく際の戸惑いがあるのではないか。そうした現状に対応した専門職養成教育の提供の必要性について示唆された。

¹⁾ 小嶋章吾ら（2009）『医療ソーシャルワーカー養成教育の基礎的研修（その2）～現任者を対象としたアンケート調査結果を基に～』医療と福祉 86（43），42-46頁